



第146回拡大地方本部委員会

24春闘17,000円の賃上げを

組織拡大に全力を上げよう

地方本部は、2月17日に第146回拡大地方本部委員会を開催した。
2024春闘における賃上げと労働条件改善、組織の強化・拡大、ローカル線廃止反対・駅の無人化反対などに全力を上げることなど、当面する闘争方針を決定した。



議長 佐藤委員

第146回地方本部委員会は、片岡副委員長の司会ではじまり、地方委員5名中4名の出席を確認して委員会の成立を宣言した。議長には佐藤委員（岡山連合）が選出されました。
小林地本委員長あいさつでは、24春闘・公共交通を守り、安全を確保する課題・組織強化・拡大などが提起された。
来賓では、県労会議西崎議長が24春闘の情勢など、

退職者の会太田事務局長が、国労運動への協力など、そ

JRには公共交通を守るといふ責務がある

小林地本委員長あいさつ



は下がり続け、生活はギリギリの状況に追い詰められています。

春闘の山場はこれからです。何も声をあげず、何もしなければ私たちの生活が改善されることはありません。

要求に自信をもって、地域の仲間と共に24春闘を作り上げていこう。

公共交通を守り、安全を確保する課題

して、西日本本部大和副委員長が、24春闘、エリア委員会の報告、安全問題、組織強化・拡大等を報告された。

議題に入り、当面の闘争方針（案）を青山書記長が提案した。

方針案の討論は、5名の委員・分会代表が発言した。討論では、24春闘の取り組み、ローカル線問題、効率化施策、組織拡大、グラウンドシニア問題、職場での

ローカル線をめぐる動きは、大きな節目を迎え、芸備線の「再構築協議会」が設置され、3月26日に初会合が開催されます。

JR会社の「内部補助」

は本当に崩壊したのでしょうか。業績もほぼコロナ前に戻っているのが実態であります。国鉄の「分割・民営」化によって鉄道を引き継いだJRには公共交通を守るといふ社会的責務があります。

地本として、ローカル線を守る運動をしていきたい。

安全で働きやすい職場をつくる事も重要であります。触車死亡事故が発生しました。こうした事象を絶つた

様々な問題等活発な議論が行われ、西日本本部・地方本部応答が行われ、書記長集約では、JRの安全輸送の確立、人減らし合理化反対、労働条件改善・権利確立の取り組み、24春闘、合理化に対する取り組み、組織強化・拡大等を集約し、当面の闘争方針案が全体の拍手で承認された。その後、委員会宣言が採択され、小林地本委員長の団結ガンバロウで終了した。

めにも職場から声を上げると同時に、会社を迫及しながら本当に安心して働ける職場環境を構築していかなくてはなりません。

組織強化・拡大

これまで培ってきた国労運動を継承し次世代にその運動と組織を残していくために奮闘しています。引き続き、地本としても全国の仲間と共に国労運動を前に進めていきたい。

そして、「動きなくして拡大なし」を合言葉に取り組んできた。いろいろな工夫する中、他労組の仲間との関わる場を持ち、粘り強く、やっていこう。